令和５年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導・普及等のための競技別マニュアル等の作成」成果報告書

令和６年３月
一般財団法人全日本ろうあ連盟

本報告書は、スポーツ庁のスポーツ振興事業委託費による委託業務として、《一般財団法人全日本ろうあ連盟》が実施した令和５年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導・普及等のためのマニュアル等の作成）」の成果を取りまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

【調査概要と目的】

デフアスリートへの指導現場においては、きこえない選手ときこえる指導者との意思疎通のためには、手話言語通訳者が欠かせません。スポーツの指導現場における手話言語通訳者に求められる役割・知識としては、聴覚障害に関する理解はもちろんのこと、スポーツへの理解、医科学面・アンチドーピングを含むハイレベルスポーツに共通する知識のほか、スポーツならではの特性として競技毎にルールや必要とされる技術、使用用具などが大きく異なり、手話言語通訳としては非常に専門性の高いものとなります。また競技における専門用語の中には手話表現が確定されていないもの、地域によって手話表現が異なるものもあります。

そのため指導現場で手話言語通訳を行うには、手話言語通訳者が多くの知識を身につけることは勿論のこと、競技における専門用語の手話表現の確定や共通化（現状、指導現場で使用され普及しているサインも含む）も必要です。

そのため、2020 年度より「スポーツに精通した手話言語通訳者の育成等に関する有識者による検討委員会」（以下、「検討委員会」）を設け、導入としてのデフスポーツの紹介から、国歌手話言語試行版、学校体育・部活動編、医科学編の他に、競技別として、自転車、サッカー、陸上、卓球、バスケットボール、水泳、空手を取り上げたマニュアルを作成してきました。

そして 2022 年度の本事業における検討委員会において、「2023 年度のテーマとして、手話言語通訳者もインテグリティについて知っておくべきという意見が出た他、共通編については、2024 年にはデフバレーボールの世界選手権が、2025 年にはデフリンピックが日本で開催されるなど国際スポーツ大会が目白押しということもあり、国内開催での国際大会と海外遠征の国際大会における手話言語通訳者に必要な知識をそれぞれ整理していく」ことの確認がなされました。

競技編に関しては、まだ取り上げていないデフリンピック種目として、「バレーボール」の他に、国内で国際親善大会を開催している「ビーチバレーボール」及び、競技人口が少ない「オリエンテーリング」を取り上げました。

そして、昨年度同様に検討委員会の下に「専門部会」を設け、各競技における有識者を選出し、それぞれのマニュアルの作成をすすめ、現場の通訳経験者とスポーツ通訳に興味のある通訳者による研修会開催し、作成したマニュアル等の有効性や実効性を確認しました。

研修会については昨年度に続き、今年度はオンラインと対面のハイブリットとしたところ、対面 53 名・オンライン 353 名、計 406 名の方に参加いただきました。

国際手話通訳については、競技現場に限らず、空港や宿舎、聴力検査やドーピングについてなど、想定される場面を具体的に挙げ、手話言語通訳者だけでなく、デフアスリートや、きこえない・きこえにくい観覧者、応援者にとっても活用できるような内容がよいとの意見をいただきました。

また、スポーツに特化した手話言語通訳者には「現場力」が求められており、養成のためには、手話言語通訳者にデフスポーツの場面に実際に参加してもらう機会を作ったり、選手やスタッフのコミュニケーションの様子や、大会の様子を見ることが有効なスキルアップの機会に繋がると改めて認識しました。

デフリンピックの種目は全部で 21 種目ありますが、残り 11 種目が未完成です。2024 年度のテーマとして、東京 2025 デフリンピックに向けて、まだ取り上げていないデフリンピック種目として、競技編（６競技）、「バドミントン」「柔道」「テニス」「ボウリング」「ゴルフ」「射撃」を取り上げ、それぞれの競技における手話言語通訳者の発掘・養成につなげていくことを確認しました。

実　施　日　程　表（実　績）

実施時期	実施事項	
	１. 検討委員会	2. 専門部会
10 月	５日　委託契約	
	24 日 第１回検討委員会	24 日 第１回専門部会
12 月	12 日 第２回検討委員会	12 日 第２回専門部会
１月	24 日 第３回検討委員会	24 日 第３回専門部会
２月	12 日　研修会開催	
３月	事業委託成果報告書作成（製本）、完了報告書（会計等）提出	

事業実績の説明

（1）有識者による検討委員会

１.「デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会」委員の選定
全日本ろうあ連盟及び国際手話通訳・バレーボール・ビーチバレーボール・オリエンテーリングの関係団体（手話言語関係団体、デフスポーツ競技団体、現場手話言語通訳者等）から適任者を選定し、委員を委嘱した。

＜任務内容＞
・委員会会議出席（期間内３回を予定、オンライン参加対応可）
・メーリングリスト等を活用した意見交換
・パンフレット作成への意見提案・骨子案作成
・スポーツに精通した手話言語通訳者養成オンライン研修会企画、検討
・事業の結果・分析、提言作成

＜検討委員会委員＞　８名

国立大学法人筑波技術大学　教授（ろう）	大杉　豊
アジア経済研究所新領域研究センター 主任調査研究員（きこえる）	小林　昌之
一般社団法人日本手話通訳士協会　理事・事務所長（きこえる）	草野　真範
一般社団法人日本デフバレーボール協会　理事（ろう）	布山　和司

一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会　選手（ろう）	今井　勇太
日本デフオリエンテーリング協会　代表（ろう）	野中　好夫
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　事務局長（ろう）	山田　尚人
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　委員（ろう）	稲葉　智子

（２）専門（作業）部会

１．「デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成マニュアル作成における専門（作業）部会」部員の選定

検討委員会の意見を元に、マニュアル（国際手話通訳編、バレーボール編、ビーチバレーボール編、オリエンテーリング編の４冊）を作成する作業部会として、手話言語関係団体、デフスポーツ競技団体、現場手話言語通訳者等から適任者を選定し、ろう当事者ときこえる人のバランスも考慮したうえで部員を委嘱した。

なお、レイアウト等の作成方針を統一するために、当連盟スポーツ委員会事務局長を作業責任者として、筑波技術大学総合デザイン学科の学生が編集担当として４部門すべてに入った。

＜任務内容＞

・マニュアル（国際手話通訳編、バレーボール編、ビーチバレーボール編、オリエンテーリング編）作成
・検討委員会、専門部会議出席
・メーリングリスト等を活用した意見交換
・スポーツに精通した手話言語通訳者養成研修会開催運営

＜国際手話通訳編＞　７名

国立大学法人筑波技術大学　教授（ろう）	大杉　豊
アジア経済研究所新領域研究センター 主任調査研究員（きこえる）	小林　昌之
一般社団法人日本手話通訳士協会　理事・事務所長（きこえる）	草野　真範
全日本ろうあ連盟登録国際手話通訳者（ろう）	川上　恵
国立大学法人筑波技術大学総合デザイン学科（ろう）	高野　大輝
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　事務局長（ろう）	山田　尚人
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　委員（ろう）	稲葉　智子

＜バレーボール編＞　５名

一般社団法人日本デフバレーボール協会　理事（ろう）	布山　和司
一般社団法人日本デフバレーボール協会 手話言語通訳者（きこえる）	岡田　直樹
国立大学法人筑波技術大学総合デザイン学科（ろう）	高野　大輝
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　事務局長（ろう）	山田　尚人
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　委員（ろう）	稲葉　智子

＜ビーチバレーボール編＞　５名

一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会　選手（ろう）	今井　勇太
一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会 手話言語通訳者（きこえる）	根本　由家
国立大学法人筑波技術大学総合デザイン学科（ろう）	高野　大輝
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　事務局長（ろう）	山田　尚人
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　委員（ろう）	稲葉　智子

＜オリエンテーリング編＞　５名

日本デフオリエンテーリング協会　代表（ろう）	野中　好夫
日本デフオリエンテーリング協会 スタッフ（きこえる）	清弘　夏子
国立大学法人筑波技術大学総合デザイン学科（ろう）	高野　大輝
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　事務局長（ろう）	山田　尚人
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会　委員（ろう）	稲葉　智子

（３）「検討委員会」「専門部会」会議の開催

・ 第１回検討委員会後、検討委員会で出た意見を基に、マニュアルのたたき台を作成するために３回会合を行った。第２回検討委員会後は、主にメーリングリストを用いて、マニュアルの加筆・修正を行った。

会議日時	出席者
＜オンライン（ZOOM ミーティング）＞ 第１回…2023 年 10 年 24 日（火） 第２回…2023 年 12 年 12 日（火） 第３回…2024 年１月 24 日（火） ＜各共通＞ 18：00～19：00 検討委員会 19：00～20：00 専門部会①（国際手話通訳） 20：00～21：00 専門部会②（バレーボール・ビーチバレーボール・オリエンテーリング）	・検討委員 （大杉、小林、草野、布山、今井、野中、山田、稲葉） ・専門部員 ① 国際手話通訳チーム（大杉、小林、草野、川上、高野、山田、稲葉） ② バレーボールチーム（布山、岡田、高野、山田、稲葉） ③ ビーチバレーボールチーム（今井、根本、高野、山田、稲葉） ④ オリエンテーリングチーム（野中、清弘、高野、山田、稲葉）

●第１回

開催日時：2023 年 10 年 24 日（火）

議　題：　１．事業概要・主旨・方向性の確認

２．マニュアル（冊子）について

３．研修会の位置付けについて

議論概要：今年度は共通編においては、国内開催での国際大会と海外遠征の国際大会における手話言語通訳者に必要な知識をそれぞれ整理していく、競技編においては、まだ取り上げていないデフリンピック種目として、「バレーボール」の他に、国内で国際親善大会を開催している「ビーチバレーボール」及び、競技人口が少ない「オリエンテーリング」を取り上げ、それぞれの競技における手話言語通訳者の発掘・養成につなげることを確認した。会議においては、実際のマニュアルを作成する検討（作業）部会のスケジュール確認及び、マニュアルを使用した研修会をどのように進めていくか確認を行った。

＜第１回検討委員会の様子＞

●第２回

開催日時：2023 年 12 年 12 日（火）

議　題：　１．専門部におけるマニュアル作成の進捗状況について

２．パンフ（共通部分）の構成（案）について

３．パンフ（国際手話通訳、バレー、ビーチバレーボール、オリエンテーリング）の構成（案）について

４．マニュアルを使用した研修会の実施について

議論概要：それぞれのマニュアルの進捗確認を行った。スポーツの場面の写真、QR コードでの手話動画を多く掲載し、見やすい形とすること、またそれぞれ種目の特性に応じて通訳の場面の留意点（服装、団体競技・個人競技の違い、合宿や試合等における通訳の違い）について、お互いの競技で異なる部分、重なっている部分等を確認した。また研修会は委員の都合を調整したうえで、戸山サンライズにて実施することで決定した。

＜第２回検討委員会の様子＞

●第３回

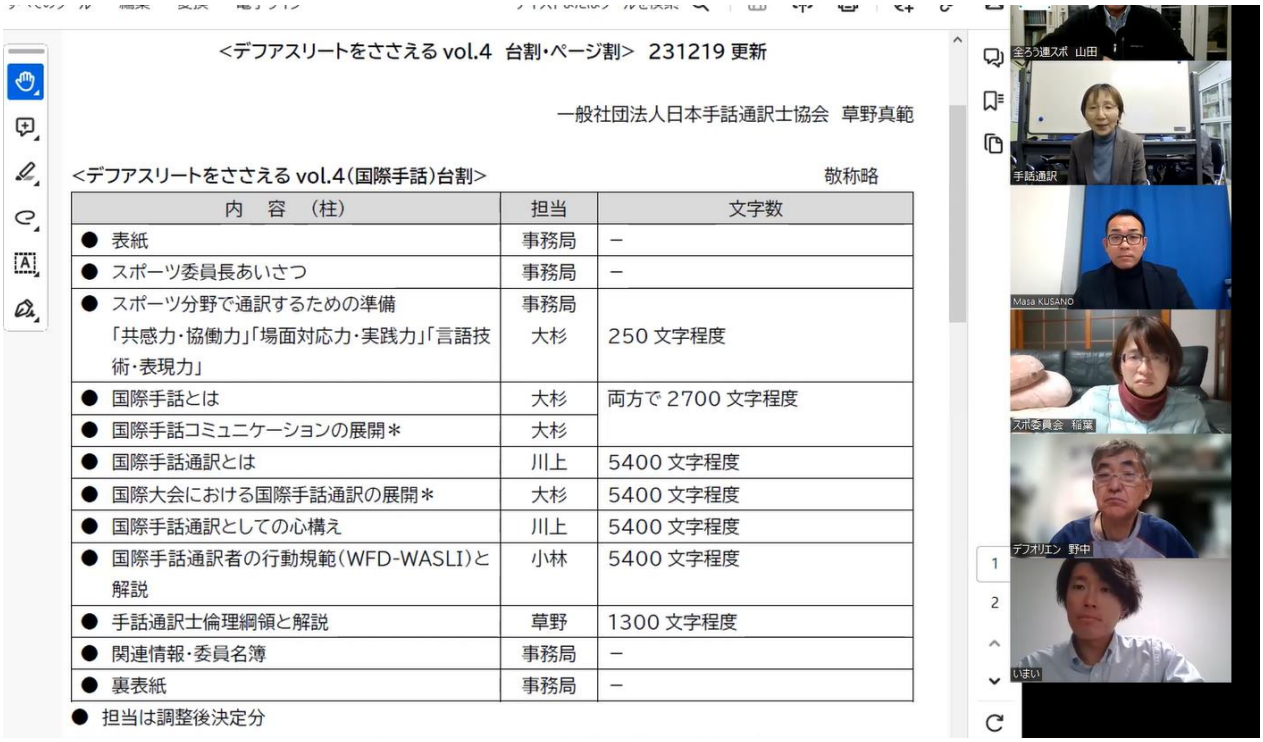
開催日時：2024 年 1 月 24 日（火）

議　題：　１．専門部におけるマニュアル作成の進捗状況について

２．マニュアルを使用した研修会の実施について

議論概要：マニュアルの進捗状況確認と研修会の内容について確認を行った。い

ずれの専門部会も通訳者の立ち位置や注意事項を中心にほぼ８割完成している状況。研修会では現時点での案を出して、研修会で出た意見を補足していくこと、表紙のデザインについては昨年度の表紙を踏襲すること、研修会は昨年度同様、オンラインと対面のハイブリットで実施することを確認した。



<デフアスリートをささえる vol.4　台割・ページ割>　231219 更新

一般社団法人日本手話通訳士協会　草野真範

<デフアスリートをささえる vol.4(国際手話)台割>　敬称略

内　容　(柱)	担当	文字数
● 表紙	事務局	−
● スポーツ委員長あいさつ	事務局	−
● スポーツ分野で通訳するための準備 「共感力・協働力」「場面対応力・実践力」「言語技術・表現力」	事務局 大杉	250 文字程度
● 国際手話とは	大杉	両方で 2700 文字程度
● 国際手話コミュニケーションの展開＊	大杉	
● 国際手話通訳とは	川上	5400 文字程度
● 国際大会における国際手話通訳の展開＊	大杉	5400 文字程度
● 国際手話通訳としての心構え	川上	5400 文字程度
● 国際手話通訳者の行動規範(WFD-WASLI)と解説	小林	5400 文字程度
● 手話通訳士倫理綱領と解説	草野	1300 文字程度
● 関連情報・委員名簿	事務局	−
● 裏表紙	事務局	−

● 担当は調整後決定分

＜第３回検討委員会の様子＞

（４）スポーツに精通した手話言語通訳者養成研修会の開催

・スポーツに興味のある手話言語通訳者を集めて、作成したマニュアルについて意見交換を行うべく、対面＋オンラインのハイブリット形式で行った。年々檀家者数が増加し、関心の高さが伺えた。参加者から集まった意見を元にマニュアルの改善を行った。

【目的】　国内開催および海外遠征での国際スポーツ大会における手話言語通訳者に必要な知識や、競技別の専門用語の手話表現、競技中における手話言語通訳者が注意すべきこと等について意見交換を行い、スポーツに精通した手話言語通訳者を養成することを目的とする。

【日時】　2024 年 2 月 12 日（月祝）14：00～16：00（受付 13：30～）

【場所】　戸山サンライズ　２階　大研修室（オンライン＋対面）

【対象】　スポーツに関心を持っている手話言語通訳の方
デフスポーツや国内開催および海外遠征での国際スポーツ大会に関わっている方
手話言語通訳を受けているデフアスリート

【内容】

１．本事業の目的及び本日の流れについて

一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局長　山田 尚人

２．座談会

テーマ：　スポーツ現場における手話言語通訳者として大切にしていること

コーディネーター：　一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会
事務局長　山田 尚人

通訳者の立場から

国際手話通訳編：　アジア経済研究所新領域研究センター
主任調査研究員　小林昌之

バレーボール編：　一般社団法人日本デフバレーボール協会
手話言語通訳者　岡田直樹

ﾋﾞｰﾁﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ編：　一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会
手話言語通訳者　根本由家

ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ編：　日本デフオリエンテーリング協会　スタッフ　清弘夏子

３．パンフレット案に対する意見交換

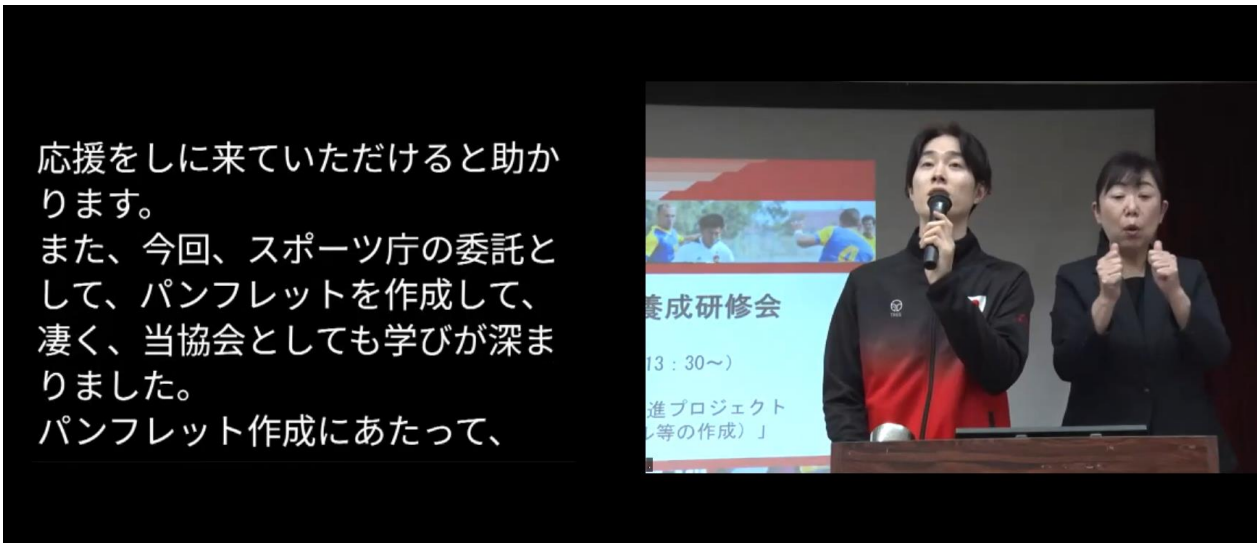
国際手話**通訳**編：　全日本ろうあ連盟登録国際手話通訳者　川上恵

バレーボール編：　一般社団法人日本デフバレーボール協会　理事　布山和司

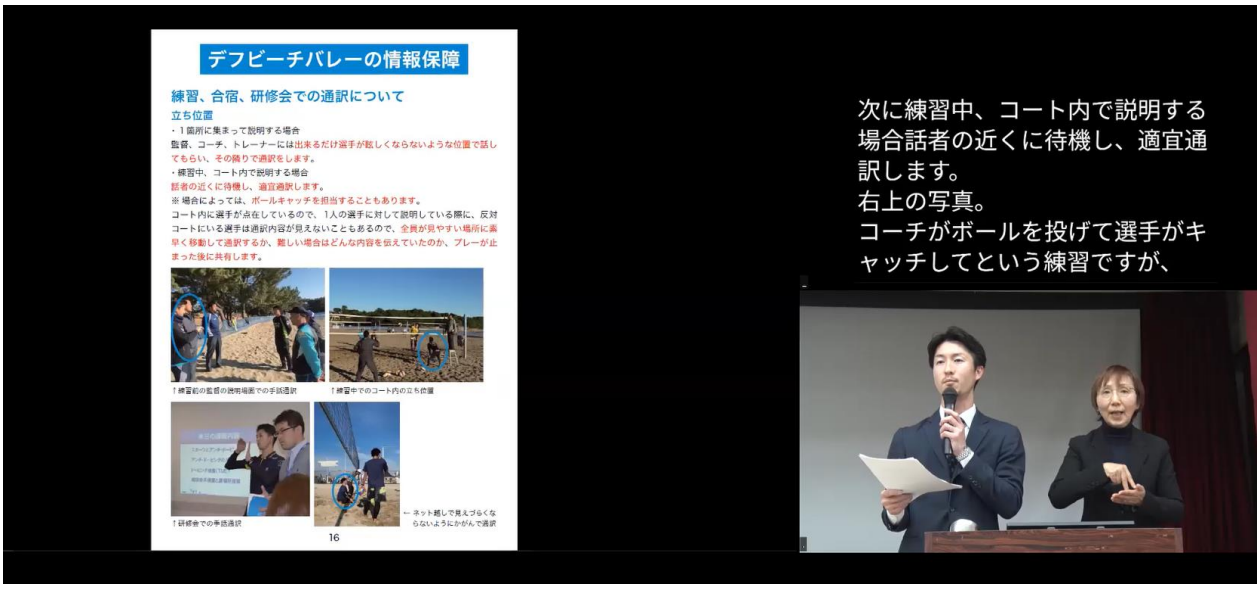
ﾋﾞｰﾁﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ編:　一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会 選手 今井勇太

ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ編：　日本デフオリエンテーリング協会　代表　野中好夫

＜研修会の様子（対面）＞



＜オンライン画面＞【左】パソコン要約筆記、【右】現場の講師・手話言語通訳者



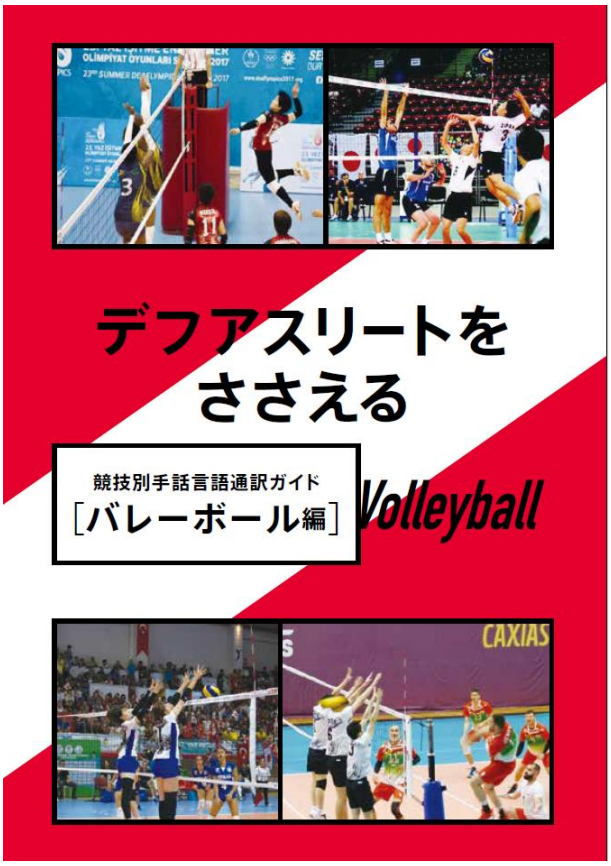
＜オンライン画面＞【左】マニュアル、
【右上】パソコン要約筆記、【右下】現場の講師・手話言語通訳者

（５）成果物

（共通編）「デフアスリートをささえる　vol.　４」（国際的なデフスポーツ大会における国際手話通訳編）

（競技編）「デフアスリートをささえる　競技別手話言語通訳ガイド　バレーボール編」
「デフアスリートをささえる　競技別手話言語通訳ガイド　ビーチバレーボール編」
「デフアスリートをささえる　競技別手話言語通訳ガイド　オリエンテーリング編」

国際手話通訳編（24 ページ）



バレーボール編（24 ページ）

ビーチバレーボール編（24 ページ）

オリエンテーリング編（24 ページ）

以上